



TITLE:

臺中での水星の観測

AUTHOR(S):

公文, 武彦

CITATION:

公文, 武彦. 臺中での水星の観測. 天界 1937, 17(195): 332-332

ISSUE DATE:

1937-06-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167492>

RIGHT:

臺中での水星の觀測

公文武彦

今度の水星の目面経過は内地では見られぬために、自分が臺中に遙々出張を仰せつかつた譯である。既報の通り幾分困難な觀測で又頗るキワドイものではあるが、9日の同時刻に見た太陽像は實に見事で周邊にある黒點の半暗部も頗る見事に見る事が出来た。丁度この日は雨後ではあり又雲の隙間から見た關係上、地熱に依る空氣の動搖も殆んどなく、この分なればと安心した次第であるが、只一つ望遠鏡の運轉時計が如何に努力しても思はしくなく、シーリングは好くとも低倍率で満足せねばならぬと覺悟は決めてゐた。さて當日は全く焼きつく様な炎天で、黄塵も多く又太陽の高度が低くなるに伴れて太陽像は極めて不安定で、間斷無く動搖し周邊は宛も波打つ様にちらついて見えた。かくて結果としては自分と松本氏が時々瞬間的に其らしきものを見た程度で、確かに水星像の通過を認めたと云ふ事は出来ない。従つてニユ1カムの數値の誤差による外れと、確實に経過があつたかの何れも疑問と發表する方が正當と思はれる。これは津野田氏は3吋で何等の現像も認めてゐないし、且自分が反射望遠鏡を使用したために特に氣流の影響が大であつた事も擧げられる。之を要するに其の原因の如何に關はらず今度の觀測が失敗である事は誠に遺憾に耐へない次第である。尙今度の觀測に當つて公務の傍ら絶大の御援助御協力を給はつたブラシヤ1反射鏡主任彰化高女教諭松本先生及び臺中病院長津野田博士の御兩人に對して深く感謝の意を捧げる次第である。又日常望遠鏡の管理に當られる第二中學校當局の方々、特に終始御援助と理解を惜まれなかつた校長先生及び宮地、小川、秦泉寺の諸先生に對して厚く御禮申し上げる次第である。

苦澀炎熱の臺中にも、到る所にある停止脚から見た紺碧の空に映える綠芝の新鮮さ、街路に立列ぶ合歡の花の芳香等は思ひ出深いが取分け南國の夜空は美しい。榕樹ガシマルの木蔭にバナナを賣る露天風景も又面白い。つくづく南に來たと云ふ感じがする。